

会 議 録

会 議 名	(仮称)小金井市貫井北町地域センター建設実施設計 第2回市民検討委員会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成23年7月24日(日) 午前10時から正午		
開 催 場 所	市役所第二庁舎8階 801会議室		
出 席 委 員	渡辺委員長 浅野副委員長 福島委員 多田委員 伊藤委員 桂委員 平井委員 零委員 三島委員 中村委員 松尾委員 藤井委員		
欠 席 委 員	仙波委員		
事 務 局 員	天野生涯学習部長 大関公民館長 田中図書館長 杉村図書館 主査 池田建築営繕課副主査 黒田建築営繕課主事 山崎公民館庶務係長 渡辺公民館事業係長 樋口公民館副主査		
事 業 者	株式会社 前川建築設計事務所 橋本(代表取締役・総括責任者) 田中(意匠担当主任技術者) 畑野(意匠担当技術者)		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 前回の質問事項等について</p> <p>2 図書館のゾーニングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般書と児童書のバランスについて ・ブラウジングコーナーと蔵書数のバランスについて ・事務室廻りにについて <p>3 公民館主要諸室の利用形態の確認と仕様について</p> <p>4 次回の開催日程について</p> <p>5 配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 質問事項回答一覧(No.1~36)…実施設計検討委員会資料 5 (2) 質問事項回答一覧(No.37) …実施設計検討委員会資料 6 (3) 図書館平面図(A案-改) …実施設計検討委員会資料 7 (4) 2階平面図 …実施設計検討委員会資料 8 (5) 公民館主要諸室詳細図 …実施設計検討委員会資料 9 		

会 議 結 果

大関公民館長 (仮称)小金井市貫井北町地域センター建設実施設計における第2回目の市民検討委員会を開催する。

会議開始にあたって

大関公民館長 事前に資料5－質問事項回答一覧と前回の会議録をお送りしている。本日はお手元に式次第と資料6から資料9を配布してあるので確認をお願いしたい。

－ 配布資料の確認 －

大関公民館長 前回(第1回)会議録の承認をいただきたい

－承認 多数－

渡辺委員長 皆さん、おはようございます。

前回は出席できず申し訳なかったが、いただいた会議録を読ませていただくと、図書館部分について活発な議論がなされたことがうかがえる。今日はその続きになると思われるので、2時間という限られた時間のなかではあるが、積極的な発言をお願いしたい。次第に従って進めていく。

1. 前回の質問事項等について

大関公民館長 事前に配布している「資料5－質問事項回答一覧」については既にご覧いただいていると思うので、一つ一つの説明は省かせていただき、回答への質問や本日お配りした質問回答についてのご意見をお受けする。

松尾委員 全部で36項目あるので、ポイントとなる部分についてのみ確認させていただきたい。

No.6の小河内先生のことであるが、小河内先生は日本における児童図書館の草分け的な方、パイオニアといわれている方で小金井には1974年から1998年まで24年間お住まいになっていました。小金井市の図書館や学校図書館、或いはこども文庫の活動・発展に尽力されていた方で、小金井を去る時に約800冊の絵本や児童書を市民の方に寄贈されて、“こごうち文庫”として今日まで続いている。小河内先生は海外の方と比べても劣らない活動をされてきており、イギリスの児童図書館員のパイオニアであるアイリーン・コルウェルさんという世界的に有名な方や、カナダのトロントの「少年少女の家」を作った児童図書館員でリアン・スミスさんという方がいらっしゃるが、この二人に伍する方である。小金井市民の方が小河内先生のことを忘れることがないように、図書館に文庫コーナーを設けていただきたい。先日、日野の平山図書館を見学に行ってきたが、平山季重のコーナーがあり、大方の図書館は特設コーナーを設けている。小金井でつくれば全国から児童図書館に関係する方々が来られるかもしれないし、アピール効果が期待されるのではないかな。

No.7は、「開架式書庫」という表現に違和感をもっている。書庫

という閉架のイメージがあるので「開架室」、「一般開架室」や「貸出開架室」という表現に変えた方がよいと思う。建築家に聞いたところ、「開架式書庫」というのは確かに使われていたが、相当昔のことで今は使われていないとのことであった。

No.16 で、4 行目に「ブックトラックを返す」とあるが「ブックトラックを通す」の間違いである。

No.20 で、お話し室が円形になっていて出入口の幅が 1.5m となっているが私は狭いと思う。子どもが 3、4 人並ぶといっぱいになってしまうので 2m くらいは必要ではないか。

No.28 で、ブックポストというのは図書館が閉まっている休館日や夜間に使われるものなので、裏庭に設置するのでは不便であるし、夜間は危険ではないかと思う。私は表側の、図面で言うとエレベーターの左側の辺りで、壁から室内に落とせるような設計がよいのではないかと思う。回答を見ると「雨の日などは本が濡れて汚損の原因となります」と書かれているが、これは理由にならないと思う。というのも小金井市は駅前にポストを設置しているし、そこは雨に濡れる。市民の利便性や危険を回避する意味で表通り側に設置した方がよいと思う。

No.35 は日本語表現のことを言っただけで、言葉遣いに配慮していただければよいと思っていたが、回答を見ると基本設計書は「事務局内部の細部資料として位置づけられており、一般市民を対象に分かりやすい表記でとのお願いはしておりません。」と書かれている。1970 年代ならいざ知らず、1982 年に山形県の金山町というところで全国で初めて情報公開条例ができて、追いかけて国がつくったのが 1999 年であるが、情報公開というのは、市民が行政情報を知ることが当然の権利であるということからなされているので、内部資料だから見せないというのはおかしいと思う。図書館はむしろ情報公開の拠点でもあるので検討していただきたい。もう一つ言わせていただくと、小金井市の市民参加条例には市政の主役は市民ですと書いてあって、小金井市の情報公開条例を見ると市が市制に関し市民に説明する責務を全うし、市民の参加と監視のもとに公平で透明な市政を推進しとあり、要するに開かれた市政を目指すということが目的と書かれている。公開情報の対象となる市政情報にはどのようなものがあるか定義されています。

渡辺委員長

お話しの途中ですが、この時間は図書館の内容を検討したいので、おっしゃる意味は分かるが、そのような一般的な話をずっとされてしまうと議論が出来なくなってしまうので、その辺りは割愛していただきたい。

松尾委員

分かりました。ということで、この内部文書だからというのは今日通らないのではないか。

No.36 については私の考えで、弓型にへこませるよりも直線にした方がよいのではないかと思った次第です。

追加質問させていただいたのは、地震と西日対策についてで、西日が強い時には読書に耐えられないのではないかとということで、検討していただければお願いしたい。

渡辺委員長

No.37の話は松尾委員が言われることはもっともな話で、設計事務所側が責任を持って対応してもらわないと困ることなので、ここに書かれているような一般的なことではなく、もっと具体的に、実施設計だからこうしたいというのを示していただきたい。植物を植えるのは簡単だが、植えれば誰が管理するのかの話も生まれるので、しっかり対応してほしい。植物に頼りすぎると万が一上手くいかなかった時に、夏暑くてしょうがないということにもなるので十分気をつけていただきたい。

今、松尾委員からご指摘があったが、私が見てる感じでは図書館自体の広さが限定的であるので、せめぎあいがあるように思われる。只もっともなご意見もあるので、その辺りはあたまに置きつつ、回答しておしまいということにはしていただきたいくない。気になるのは、言葉の話は設計事務所側にも気をつけてもらうとして、ブックポストの位置は裏側でよいのか疑問に思う。この回答も意味がよく分からないが、事務所側の回答なのか。

前川・田中
渡辺委員長

図書館側からの回答である。

普通は入口の脇にあると思うのだが。図書館長から意見をいただきたい。

田中図書館長

No.6から順番に説明したいと思う。

まずNo.6についてですが、図書館では地域に関連する方については、例えば串田孫一さんや、その他に安野光雄さんといったゆかりのある方のものは集めているが、全体的なスペースの問題や、大きな中央図書館ができるということも踏まえ、どういったものを収集していくかは今後の課題と考えている。今回はご意見として伺っておく。

No.28について、私のイメージでは別の場所に置く場合には道路に面して単独で置くようなことで考えたので、そこから本を出して図書室まで運ぶイメージ、ちょうど駅前に置かれているブックポストのようなイメージだったので回答に書かせていただいたが、松尾委員や委員長からもあったように、位置については市民の利便性のよいところを検討したいと思う。

平井委員

No.6の小河内芳子先生の件だが、先生は小金井で24年間過ごされ、一昨年102歳で亡くなられた。現在全国で偲ぶ会の冊子が編集されつつあるが、小金井を離れられる際に市内に足跡を残したいということで色々なところに交渉した。場所がないと断られ、“こごうちぶんこ”をつくった。先生は児童図書研究会の会長を長く務められ、全国で“お話しする人達”を育てられた。“お話し部屋”に名前をつけて、例えば「小河内芳子先生の部屋」とか「小河内芳子先生の椅子」などと。中央館が建つのは大分先の話なので今回が

チャンスである。丸い素敵な部屋が出来そうなので、そこを「小河内芳子先生の部屋」として名前を残すことは出来ないものか。

渡辺委員長

おっしゃるように部屋の名前をどうするかは今後検討していくことになるので、この委員会の提言として、このお話し室をこうしたらどうかというのは十分提言できる内容ではないかと思う。

この他に何か図書館からのお話しはあるのか。

渡辺委員長

それでは前回の質問事項について、松尾委員はご専門ということで、色々と細かいアドバイスをさせていただきありがとうございました。

引き続き 2 番目の図書館のゾーニングという内容について説明していただくなかで、質問に対する回答にも触れられると思うので宜しくお願ひしたい。

2. 図書館のゾーニングについて

前川・田中

実施設計を進めていくにあたり、基本設計からの課題として残っているのが図書館部分である。前回もお話をしたが、ここで改めてこの質疑回答にあるように、市民のご希望と市の管理面からの考え方を踏まえて、一般書と児童書の割合や事務室の広さ等について検討したい。

— 資料 7 による設計図の説明 —

前川・田中

蔵書数の算定根拠として一〇棚あたり 35 冊としているが、これは割りとゆとりのある数値である。緑分室は半分くらいの面積に同じ 6 万冊の蔵書が置かれ、かなりびっしり詰め込まれた状況にある。貫井北町も標準的な数字にこだわらず、緑分室と同じように詰め込んでしまえばかなりの数が入ることになるが、現時点では将来的な蔵書数の変動も踏まえて、余裕を持った数値で考えることとする。

・図書館の考えとして一般書：児童書の割合は 3：1

・要望として一般書：児童書の割合が 2：1

上記のエリア分けを平面図上で説明

前川・田中

市の方針としては当初一般書と児童書の割合が 3：1 であったが、児童書架を増やしてよいかどうかをこの席で議論して宜しいか。

田中図書館長

議論していただいて構わない。

渡辺委員長

前回の議事録を読ませていただいたが、全体の面積が限られているので、一方を増やせばもう一方が減るといふ、一長一短な部分がある。棚に 35 冊という標準的な算定基準に基づいてやっておられるので、児童図書も小さい本があればもっと増えるし、大きければ変わってくるので、少しイニシアティブをとっていただきたい。設計者としてどちらの空間がよいとお考えになられているのか。

前川・橋本

図書館の空間としては B 案で、カウンターの前辺りまで低い書

架が並び、ヤング・アダルトやAV資料の辺りを境に一般書架が並ぶようにしたい。カウンターから見通しのよい空間をつくりたいと考えている。

渡辺委員長

図面だと分かりにくいですが、皆さんは模型をご覧になったのでお分かりかもしれないが、実は書架の高さが違っている。前川事務所からはB-2案の方がよいのではないかと意見をいただいた。

松尾委員

私もB-2案がよいと思う。柱がヤング・アダルトとAV資料のところにあって空間が分けられ、書架の並びが縦並びは成人、横並びは児童というように分けられる。更に児童コーナーはカウンターからの見通しがよい。

三島委員

私もそう思う。

平井委員

私もそう思う。先日見学した日野市や静岡市の図書館もゆったりとしていて、子ども（児童）からお母さん（成人）の方が見え、お母さんからも子どもがよく見えて、非常によかった。

渡辺委員長

空間としては前川事務所からあったようにB-2案の方がよいと思うのだが、何か気になる点などはないか。

渡辺委員長

宜しければ、この委員会としてはB-2案をもとに進めていくことで方向性を決めていきたいと思う。

まずそこで書架の高さが決まってくると思う。

先程、松尾委員の方からもあったが、開架書庫というのは違和感があるので、書庫というのではなく別の名前に変えていただきたい。それから、書架の間の巾はそれぞれどのようなお考えで出来ているのか簡単に説明していただきたい。一般開架の一番右側の部分は広く空いているが意図的なものなのか。

前川・田中

書架のピッチを1.8mで考えていて、書架には足元で60cmくらいのものであるため、書架と書架の間が概ね1.2m以上になるようにしている。一般書架の右側部分が他よりも空いているが、もともとあった参考図書コーナーを左側の閲覧コーナー側に移動したため、その部分が空いている。

渡辺委員長

今、スペースのせめぎ合いをしているなかで、ここが空いているのは非常にもったいないように思える。意味があつてスペースをとっているのであれば、それは設計者の判断として構わないが。

出来るだけブラウジングをとってほしいとの意見もあるので、空間を有効につかっていたら、それらの意見を反映出来るような配置にしていきたい。

前川・橋本

図面にあるように参考図書の閲覧に一般閲覧コーナーが使われているが、それによって一般閲覧が減ることになる。本来、参考図書というのはカウンターに近い位置にあってレファレンスが可能な設えとして然るべきもので、そういった意味では右側に参考図書があり、道路側には一般閲覧コーナーがあるのが基本的な考え方だと思われるが、皆さんのご意見を聞きながら別のレイアウトをすることで、こういった問題も見えてくる。

平井委員
渡辺委員長

私も賛成である。

何に対して賛成なのか。前川事務所は右側に参考図書をもってきた方がよいとおっしゃっているのだが。

前川・橋本

右側には分類番号でいうところの0番から10番までの書架がきて、それに伴って地図や辞書などが読めるテーブルが近くにある。

また、このコーナーは比較的コピーとったりすることが多いので、事務室やレファレンスに近いところに置いた方が望ましいと考えている。そして左側の方は一般の閲覧コーナーにした方がよいのではないかと考えている。

平井委員

それで書棚が収まるのであれば、それでよいと思う。先の話ではあると思うが。

渡辺委員長

そんなに先の話を行っているのではなく、実施設計をやっているので、レファレンスをこちらにもってくるのであれば、それを決定しなければならないので将来的な話ではない。

図書館側のご意見は如何か。

田中図書館長

もともとここには参考図書のコーナーがあり、それに伴って机が置かれていたが、その後参考図書コーナーはいらないという意見があつて左側に出したところ机がなくなってしまったという流れだったと思う。右側の部分はスペースがすいているので、参考図書を置く置かないに関係なく、通行の邪魔にならないのであれば机を置いた方がよいと考えている。

渡辺委員長

それでは、基本的には参考図書の位置を右側にもってきてレイアウトを見直し、閲覧のスペースも少ないように思えるので併せて検討していただきたい。ここは2階に公民館があるので、借り出してから2階で読まれる方もいらっしゃるかもしれないが、図書館本来の目的はそこで本を読んだり、色々調べ物をしたりすることなので、そういうところへの配慮をお願いしたい。

それでは次のテーマについてお願いしたい。

前川・田中

続いてブラウジングコーナーについての検討に移りたい。ブラウジングコーナーは児童コーナーと隣合せではなく、少し離れた位置に置きたいという要望から左上の方に移動している。

— 資料7（2枚目）による設計図の説明 —

前川・田中

これからシニアの方が増えていくということを踏まえて、ブラウジングコーナーを広げていくと、それによって書架が減ることになり一列で2500冊、更に一列減らすと5400冊以上が減ることになる。

渡辺委員長

ブラウジングを広げていくと、書架が減っていくという脅迫的な話ではなく、現在のブラウジングコーナーはこうなっていて、前川事務所はこう考えているというのを聞かせていただきたい。この家具の配置だけではイメージしにくいと思うので、模型写真を出していただくとか、市民の方に分かりやすいようにしないと判断できないと思う。今、この案では何人の型が座れるのか。

前川・田中 渡辺委員長	12人分のソファーとなっている。 12人がゆったり座れるソファーがあり、ソファーの間にある2席分のこれは何ですか。
前川・畑野 渡辺委員長	新聞閲覧台になっていて、裏側にバックナンバーが置かれている。 皆さんは、イメージが湧いてくるか。
前川・橋本	— 模型による説明 — 基本的な考え方としては、図書館の入口を入るとブラウジングの辺りまで見通しが利くような空間にしたいと考えている。 カウンターからも見通しが利くようにするために高い書架が邪魔であればとってしまっ、その分他に詰めればよい。 本を増やしたいなどのご意見を反映させると、どうしても図面のようにになってしまうが、もう少し自己主張させていただけるのであれば、見通しの利くゆったりとしたスペースをつくりたいと考えている。
藤井委員	最初からそういうものを出していただきたい。人の動線や管理の動線も踏まえて、これが一番であるというようなものを自信をもって出していただきたい。小金井にはこういうものが相応しいというものを我々は事務所側に求めている。
渡辺委員長	数字だけではよいものはつくれないので。たくさん入れればよいというものでもない。
雫委員 前川・田中 前川・橋本	ここには何人くらい座ることが出来るのか。 一般が42席で、児童が25席である。 だいたいの目安であるが。 入口を入るとブラウジングの辺りまで見てとれて、どこの席が空いているかも分かるような空間として、反対側のこちらの方は学生たちが本を探してコピーをとったりすることも出来る学習空間のようなどころになる。
雫委員 田中図書館長 松尾委員 前川・橋本	コピー機はどの辺りに置かれるのか。 地域館に1台だけなので、図書館にはない。 新聞閲覧台は必要ないのではないか。 最近ソファーに腰掛けて読まれる方が多いので、この2台をなくせばその分ソファーを増やすことも出来る。 図書館というのは書架や家具の割付から寸法を決めていくので、どうしても数字的になりがちであるが、ここで皆さんの合意を得たいのが、先程も言ったように見通しの利く空間をつくることと、それによって蔵書数がへることになるが、そこは自由に考えて今後は、こういった場所性を詰めていきたいと考えている。
松尾委員 前川・橋本 松尾委員 前川・橋本	書架と書架の間の寸法は中心でとって1.8mなのか。 中心でとって1.8mなので、内法は1.2mくらいである。 標準的な寸法である。 1.2mというのは二人の人が反対向きで本を探してもぶつからな

い程度で、本を探している人の後ろを車椅子が通れるくらいの中である。

渡辺委員長

あくまでも標準なのでよい訳でも悪い訳でもない。
60cm というのも必ず全部必要かどうかというのものもある。そのあたりをきっちり詰めていけばスペースセービングが出来る。

前川・橋本

通常本のサイズは 25cm でよいが、それだと大きな本がはみ出してしまうので、足元だけ奥行きが深いものにする両面で 60cm になってしまう。図書館として書架から本が飛び出していること程みっともないことはない。

渡辺委員長

それはありえない。

前川・橋本

基本的には 1.8m のグリッドから天井照明の割付等も決まってくる。

平井委員

先程、松尾先生からも話があったお話し室の出入口について、今まで見学したところはどこも広がった。

前川・橋本

それは広げることも出来る。

渡辺委員長

上下足はどうするのか。

前川・橋本

ここで脱ぐことで考えている。

渡辺委員長

ここで脱ぐのであれば、あまり狭いとそこでつかかかってしまうことにもなる。

平井委員

場合によっては扉を閉めないで、そこに腰掛けて聞かせることもあるとのこと。

渡辺委員長

そういう使い方をするのであれば広げていただいた方がよい。

前川・橋本

広げるようにする。

福島委員

ブラウジングコーナーへ行くには、どの部分を通って行くのか。

前川・橋本

主軸としてはカウンターの前がそれにあたる。入口を入り、カウンターの前を通ってメインの動線から各分類に流れていく。

多田委員

ここから放射状に行くような感じか。

前川・橋本

そうなる。本を探している人の間をメイン動線が通る訳にはいかない。場合によっては書架を減らし、椅子を置いたりしてメインストリートを形成するようなこともあり得る。今は冊数ばかりこだわっているのだからこうになってしまう。

藤井委員

図書館の方向というのはどういう方向なのか。本の数を充実させようとしているのか、それとも市民がくつろげるようなゆったりとした図書館にしようとしているのか、どちらなのか。

前川・橋本

こちらでも分からないのは、小金井は将来中央館が出来る予定で現在も分室があり、それらが連携をとってそれぞれがどのような役目を担うのか、色々と調べてはいるがまだ見えてきていない。どういったものをこの館で収集していくかは図書館で決めることなので、こちらでは考えていない。

渡辺委員長

その質問はむしろ図書館側にされた方がよい。

前川・橋本

思いとしては、他の館がいっぱい詰まっているので、ゆったりした図書館にしたい。

平井委員 藤井委員	<p>ヤング・アダルトをどう魅力的なものにするかも問題である。</p> <p>それは中身の話だから、今議論しても仕方がない。要は、大きな方針として人の流れがこのように出来て、本のスペースはこれだけになった時に我々はどうしたらよいのかということに立ち向かっていかないと、本の中身がどうのこうの言っていると議論にならない。</p>
前川・橋本 前川・田中	<p>中身については図書館に専門の方もいらっしゃるの。</p> <p>この場で、事務室の広さの話と庇のイメージをつかんでいただきたい。模型で2階部分が載せられるので確認していただきたい。図書館の大半は深い庇がつくが、北西の角の部分だけが浅くなっている。庇の深い浅いに関係なくブラインドは併用する考えでいる。2階については模型では省略しているが、バルコニーの先端に穴あきブロックを積むので、強い日差しは軽減できると考えている。</p>
渡辺委員長	<p>1階の北西の部分については、ブラインド以外に具体的な方法を提案していただければよいと思う。</p>
前川・田中	<p>事務室の広さについてというのは、もっと具体的に言うとボランティアのための部屋をつくるかどうかの検討である。前回の検討委員会での説明に不備があったので、ここで改めて説明するが、ボランティアの部屋を設ける場合には、図書館事務室内で扱っている個人情報の問題からお互いに声が聞き取れないようにきちんと壁を作って仕切らなければならない。そこへの動線も事務室内を通す訳にはいけないので、開架室側からも出入りが出来る扉を設けなければならない。それによって書架も減ることになる。また、決して広くない事務室が更に狭くなるので、ボランティアの専用の部屋としてはつくり、2階の公民館のフリースペースなり、一室をお借りいただいて利用されたらよいのではないかと考えている。</p>
渡辺委員長 平井委員	<p>具体的にはどのような作業を行うのか。図書館のお手伝いとか。</p> <p>図書館のお手伝いとか、お話し会の本を選ぶ時に声を出して読んだり、話し合ったりするので、周りの方の迷惑にならないようにしたい。本館は児童コーナーが2階に単独であるからよいが、緑分室のように他のコーナーと同じフロアでは声を出すと周りの方の迷惑になってしまう。市民協働が言われているが、年配の方で折り紙がとても上手な方がいらっしゃるの、それを本と絡めてやるなど、いろいろな参加の仕方がある。そんなに広くなくてもよいが図書館のどこかにそういったスペースがほしい。</p>
渡辺委員長 平井委員	<p>図書室の本をそのまま持って行って打合せをするということか。</p> <p>その通りで、本を持って行って、この折り紙を折ってあそこに飾ろうとか、これからは市民参加でそういった飾り付けを行ったりなどの協力もできる。図書館職員もだんだん減ってきているので。</p>
渡辺委員長	<p>ワークルームみたいなものなので、常にこの事務室の中にとるのは事務側は大変だと思う。</p>
田中図書館長	<p>中央館をやるときにはボランティア室を設けようと考えている</p>

が、ここは地域館で狭いため、そういったスペースは2階の公民館の部屋を借りることで対応できると思う。

ボランティアの方にどのように関わっていただくかは、まだ検討していない状況で、緑分室の現状から言えばお話し会も月に1回程度である。

渡辺委員長

図書館としてはその部屋で決めてしまうと、特定の用途以外に使えなくなってしまうことを心配されているのだと思う。

せっかく公民館があるので、それと一体的な利用が出来るようにしておかないと、図書館は図書館、公民館は公民館というように分かれてしまうので、その方がよいと思う。

平井委員

静岡の図書館など、たくさんの市民が参加しているところでは、そういった作業室はある。

渡辺委員長

おっしゃっていることを否定するのではなく、単に図書館のスペースがきついで、その中に専用の部屋を設けるのではなく、上のスペースを使ってやっていただくのはどうかということをお話している。

平井委員

その場合、本を借りないで自由に持って行って構わないのか。

田中図書館長

それは今後の事務手続きの問題である。

藤井委員

その部屋を使う頻度はどれくらいなのか。1週間に1回くらいなのか。

平井委員

そのくらいだろうと思う。新しくつくられたところで友の会ができていたところでは頻度も多く。

藤井委員

そういう機能は、むしろ本館の方ではないか。

田中図書館長

中央館では考えている。

藤井委員

分館ごとにつくったのでは、これだけしかないスペースで取り合いになってしまう。

渡辺委員長

私もそれを心配していて、スペースはある程度ゆったりした感じがないと、狭いと貧しい感じになるので、勿論そういった市民参加は今後もっと盛んになることはよいと思うので、そういった仕組みはつくるにしても、その場所は建物全体で考えていただくのがよいと思う。

前川・田中

将来対応として、出入口のBDSや自動貸出機というのはいつ導入できるか現時点では分からないということなので、将来設置が可能なように配管等は用意して、予約受取コーナーについても将来的に設置できるスペースを予め確保して当面は展示コーナーとして利用するようなことで考えている。

多田委員

システムが入るまでは壁がなくて、システムが入る時に壁をつくるということか。

前川・田中

コンクリートの壁ではないので、あとから壁を建てたり、ガラスのパーティションなどでもよいかもしれない。最初から部屋としてつくってしまうと、結果的に倉庫のような使われ方になってしまう恐れがある。

田中図書館長	将来 I C タグが導入された場合、ここで貸出が出来るようなスペース及び電源等を予め用意しておく考えでいる。
渡辺委員長	前川事務所の方でしっかりした模型を作っていただいたので、判断しやすかったと思う。 大切な話があって、冊数を当初の 6 万冊からもっと減らした方がよいのではないかという話があったが、図書館側のご意見は如何なものか。
田中図書館長 渡辺委員長	減らすというのは書架を取り除いて減らすということか。 先程の前川の話では、今は一応 6 万冊を入れる前提で配置しているが、もう少しトータルの冊数を減らすと、ゆったりとした気持ちのよい空間が出来るのではないかというものだった。
田中図書館長	当初、図書館の方で検討した際に 1 m ² あたり 100 冊ということで 6 万冊と試算していたが、わりとゆったりするなら 1 m ² あたり 70 冊くらいなので、実はここは少しきつめに入っている。1 m ² あたり 70 冊とするとトータルが 5 万冊程度となる。そういった按配もあるが、ゆとりのあるゆったりとした図書館を目指すのであれば、こちらの方になっても仕方がないと思うが、ただ、児童書と一般書の比率については、児童書を 1.5 万冊程度入れさせていただき、それによって一般書は 3.5 万冊程度となる。
渡辺委員長	今のお話しは、1 m ² あたり 70 冊程度でも構わない。そうするとトータルが 5 万冊くらいになるということだが、その中で児童書は 1.5 万冊をキープしたいので一般書が 3.5 万冊となる。かなり大切な話である。繰り返しになるが、この模型を見た感じではかなり窮屈な印象があるので、当初予定していた 6 万冊を 5 万冊程度に減らすことは、市の方でも不可能ではないとおっしゃっている。その中で児童が 1.5 万冊、一般が 3.5 万冊ということになるが宜しいか。
雫 委 員	ブラウジングコーナーで新聞等を読まれているシニアの方々は、継続的にどのくらいの時間いるのか。
田中図書館長	朝から並んでおられる方も結構いらっしゃる。それくらい利用はされている。
雫 委 員	そういう方を 2 階に上げてしまうことは出来ないか。そうすればその分 1 階が空いて、それ程いじらなくても済むのではないか。
田中図書館長	図書館の中で利用していただくのが原則だと思っている。一時利用として 2 階に持っていくこともあり得るのかもしれないが、現時点でお答えするのは難しい。万が一、2 階に新聞を持って行って読まれてしまうと 1 階の図書館に新聞がなくなってしまう事も想定できるので、それについては考えさせていただきたい。
渡辺委員長	今のご提案で、新聞コーナーを 2 階に上げてしまうと、そういう問題が起きてしまう。
田中図書館長	新聞コーナーを 2 階の公民館にもっていくのは難しいと思う。む

渡辺委員長
松尾委員

しろ公民館で新聞をとっていただいて、図書館にも新聞を置いておくのが望ましいが。

先程も一体利用の話が出ていたが、なかなか難しい。

先程から棚数と冊数の話が出ているが、標準的とされる一棚 35 冊を 40 冊にすると 5.2 万冊入ることになる。そういう意味では、まさにファジーな数値で、図書館がどんな本を選ぶかによって棚数が変わってくる。35 冊はゆとりのある数字で、公共図書館であれば 40 冊くらいで計算してよいのではないかと、そうすると一般書が 3.5 万冊から 5 万冊が入ってくる。

渡辺委員長

そのあたりについて、この委員会として 6 万冊ではなく 5 万冊とし、5 万冊の根拠は先程来出ている一棚 35 冊という標準的な数値でいくしかないので、実際には 5.2 万冊入るかもしれないが、一番大切なのは設計側の提案として、もう少し書棚を減らさせてほしいという話があって、図書館からもその基準に基づいた 5 万冊で宜しいとの判断をいただいたので、我々委員会としても宜しいのではないかとこの話をしている訳で、それで宜しいか。

— 了承 —

渡辺委員長

大きな変更になるが、次回までにレイアウトをしていただき、先程話にも出ていたブラウジングへの通路もうまくとっていただいて、市民の方が使い易い図書館に一步でも近づくよう検討をお願いしたい。

平井委員

今まで見学してきたところで、ここよりも狭い 600 m² や 650 m² くらいのところでも、結構本が入ってまだ空きがあってゆとりがあるので、先程松尾先生がおっしゃったように本にも色々な厚さがあるから、ここで 5 万冊というのではなく。

渡辺委員長

今、言っているのは棚の根拠はそのように計算するが、実際に何冊入るかは分からない。とにかく書棚の密度を今のものから少し減らす方向で合意したというふうに理解していただければと思う。単に 5 万冊しか入れないというのではなく、計算の根拠として、あくまでもこうすると 5 万冊入る程度の書架が置けることになるというふうに理解していただきたい。

田中図書館長

先程、児童書を 1.5 万冊入れたいとの話をしたが、本の置き方、見せ方によってスペースをとるので、一般書の方に面積が広がっていくと、1.5 万冊の確保が難しい状態もあり得るかもしれない。そのあたりは一般書の面積と児童書の面積を上手く考えてやっていかなければならないという感想をもった。

渡辺委員長

設計事務所の方はお分かりだと思うが、今年度は実施設計なので、このままこれを続けていると、単なる基本設計の繰り返しになってしまうので、どういった書棚になるか、具体的にどのようなブラウジングになるのかといったところまでこの委員会で見えていただいて方針を決めていきたい。今回はよい方向への揺り戻しだと思うが、今後は最終案に向けて設計事務所の方で進めていただきたい

大関公民館長
渡辺 委員長

いと思う。

ボランティアの部屋をつくるかどうかの結論を出していただきたい。
今、指摘があったが、多目的室（ボランティアの部屋）について、今日お配りしたA案一改では、ここはあくまでも事務室の一部という提案になっているが、ボランティアの方は必要な時には2階の公民館を利用していただき、その場合いちいち図書の貸出手続きをとるのか、或いは特別な配慮をされるのかについては今後図書館側が検討していただけるという話だった。これについてのご意見はどうか。

浅野副委員長

本を使って活動をするボランティアが、公民館と併設されている図書館の資料を使って、公民館で色々な活動をされるというふうにも言えるのではないか。つまり図書事務室の一面にボランティア専用室を設ける必要はないという意見である。

渡辺 委員長

他のご意見はないか。

それでは、この件については前回色々議論があったところですが、ボランティア室を事務室の一面につくるのではなく、ボランティアの方は2階の公民館の方をご利用していただく。その利用の仕方についてどのような便宜を図れるかは今後図書館側と検討していただくということで宜しいか。

— 了承 —

渡辺 委員長

次の議題に移りたい。

3.公民館主要諸室の利用形態の確認と仕様について

— 資料8、資料9による説明 —

前川・田中

ここでは、各室の仕上げとその部屋の使われ方について示している。

床仕上げについては、1階のエントランスロビーが硬い素材で耐久性のあるタイルとし、その他の部屋では大きく二つの素材を考えていて、一つはこの会議室のようなタイルカーペットで吸音性が求められる場所に、もう一つが水に強い塩ビシートである。

渡辺 委員長

それは基本設計の時に床の色分けをしてお見せいただいたので、実施設計の場では実物を持って来るようにしていただきたい。そうしないと皆さんがイメージしにくい。最終的には価格のこともあるが、そちらでイメージされているものがこういうものだというのを種類か示していただきければ、皆さんも判断しやすい。言葉を聴いているだけでは退屈してしまうのではないか。むしろこの部屋にはどういった備品があるのか、それらが出来るだけ分かりやすく工夫をしていただきたい。今日は実物がないのであれば、細かな素材の話は割愛していただいて、部屋の大きな方向付けをしていただければありがたい。

— 資料9、模型による説明 —

【生活室A・B】

- ・畳の部屋と調理室を移動間仕切りで区切り、連携した使い方や、それぞれ単独で使うことも可能
- ・畳の部屋は保育室としての利用も可能
- ・畳の部屋は靴を脱いで上がってもらったり、腰掛けることが出来るように床から 35cm あげている。
- ・調理室はアイランド式の調理台ではなく、壁際に調理台を寄せて、部屋の中央は打合せが出来るスペースとする。

渡辺委員長 基本設計の時に説明していただいた内容は結構なので、もう一步突っ込んだ話をしていただきたい。例えばコンロが3台で流しが2ヶ所だがどのように使うのか。

前川・田中 基本的には2台で、1台は温め用で考えている。

藤井委員 畳の数は4つで固定か。

前川・田中 写真はあくまでもイメージで、実際には9帖分になる。

藤井委員 ばらせるのか、固定式なのか。

前川・田中 固定畳である。

渡辺委員長 畳と言っても本畳もあればスタイロ畳もあるので、こういったものを考えているというのを出していきたい。実施設計の話をしているので、この立上りの部分がどうなっているとか細かいところを皆さんにみていただいて承認がもらえればそのまま決定なので。

実施設計が終わった時には工事に着手できるような状態になっていなければならないので宜しくお願ひしたい。

この飛び出しているのは冷蔵庫か。

前川・田中 こちら側の壁は造り付けではなく、備品のものを置くスペースとして考えている。

渡辺委員長 皆さんが気持ちよく使えればよいが、あまりにも事務的に置かれているのは如何なものか。

藤井委員 収納とかと一緒に作ることは出来ないか。

伊藤委員 冷蔵庫の奥行きが深くて60cm以上ある。食器棚はだいたい45cmくらいである。

藤井委員 食器棚で奥行きの高いものはないのか。

前川・橋本 ない。

伊藤委員 電子レンジやオープン等を置くスペースも必要になる。

渡辺委員長 この部屋が色々使えるように、出来るだけ考えてほしい。

藤井委員 廊下側からの視線を遮ることが出来る方法も検討してほしい。会議室でカーテンというのも如何なものか。

前川・橋本 この部屋の使い勝手のイメージは、基本的には家庭科室みたいなイメージだがアイランド式ではなく、一般家庭のような流しを壁際に設置して、中央には会議用のテーブルを置いて多目的に使えるように考えている。そういう前提なので食器棚とかが全部見えてしまうのだが、きちんとした会議をやるのであれば造り付けで見えないように設えなければならない。ただ、造り付けの流し等は今回の設計に含まれるが、備品棚等は設計に含まれず別途工事となる。

渡辺委員長
前川・橋本
渡辺委員長
前川・橋本

壁の収納とかは設計に含めても構わないのではないか。
工事区分をどこまでするか、これからの話になる。

何から何まで家具備品にしなければならない訳でもない。

部屋の使い勝手をイメージする中で、目隠しにして使うか、オープンにするか、そういう部屋として使うのだからという前提であるなら、あまり複雑な機能を入れない方が後々使いやすいという考えもある。基本設計の繰り返しになってしまうが、今日は皆さんにこういう使い勝手がよいとか、もっとこういう工夫が出来ないとか、そういうご意見をいただきましたかった。

渡辺委員長
伊藤委員
前川・橋本

そういった意味では先程レンジの話はあった。

オープンが必要である。

我々としては、オープン用の電源なりを用意することになる。そしてそれを置く棚も必要になる。

多田委員
前川・橋本

畳は固定だが、机は移動できるのか。

移動できるもので考えている。多目的に使う部屋は基本的に移動式の家具で考えている。

伊藤委員
前川・橋本
渡辺委員長
多田委員
前川・橋本

畳のところは高くなるのか。

35cm程高くなっている。

腰掛けられるのはよいうと思う。

一番窓側はフローリングになるのか。

縁側のような感じをイメージしている。

【学習室A・B】

・遮音性を高めるためにガラスのパーティションではない。

・二部屋に仕切れるように移動間仕切りを設置

渡辺委員長
前川・田中

防音扉とあるが。

セミエアタイトくらいを考えている。

渡辺委員長
前川・田中

一般の方には使い難いのではないか。

エアタイトとなるとグレモンになるが、セミエアタイトであればゴムパッキンなので問題ないと思う。

渡辺委員長

ある程度の遮音性は必要だが、完全な防音は必要ないと思う。

渡辺委員長
前川・橋本
渡辺委員長
前川・橋本
前川・田中

スクリーンがどこに付いて、どう映すのかを知りたい。

学習室Aの方に天井吊りのスクリーンが付く。

仕切ったときにはどうなるのか。

今は学習室Aにのみ考えているが、Bにも必要かもしれない。

一つは固定式のものを考えているが、その他はこの委員会でも使用しているような移動式のものを利用することで考えている。

渡辺委員長

それであれば、今は木の仕上げになっているが、白い壁ならどこでもプロジェクション出来るので、そういう方がよいかもしい。

前川・橋本

部屋の使い勝手としては、視聴覚室のように音や映像を使った講

松尾委員 前川・橋本	座等ができるように考えているので、遮音性のある扉と吸音もとれる音響壁を採用し、スピーカーも指向性のあるものを入れなければならないので、そういったものの配線等も確保する。
渡辺委員長	プロジェクターは天井から吊るすのか。 天井に固定式のものを取り付けることも出来るが、最近は移動式のものを使うケースが増えている。その方が多様性がある。ただ、その方式によって配線や電源をどこに出しておくかが変わってくる。
浅野副委員長	このぐらいのメインの部屋には固定式のプロジェクターが1台あって、仕切った時には移動式のものを持ってきて使うという方がよいし、他の部屋も移動式でやるしかないと思う。天井付けでやっておかないと不便なのは、大きな映像がやりにくいというがあるので、1箇所は大きな画像が映せて、何インチまで対応可能か提示していただいた方が議論しやすくよい。
前川・橋本	同じような部屋が二つある時の互換性の話で、例えば片方にピアノがあってコーラスの練習をする場合に、入りきらないからもう一方の部屋を使って練習するとか、何かイベントをやっている時に大勢で入りきらないからもう一部屋にまわして、プロジェクターを通して同じような映像が観れるとか講義が聴けるとか、相互互換の可能性を追求してほしい。
渡辺委員長	その場合に必要になってくるのがITV設備で、そういった映像システムを組むと誰が管理するのかという問題が出てくる。通常は公民館の方で管理するが、公民館の情報・映像システムとつなげると、それだけで何千万というお金がかかってしまう。
前川・橋本 渡辺委員長	今、浅野先生がおっしゃったのはそういうことではなくて、この二つの部屋を上手く使い分けるということである。 電氣的にということではないのか。
前川・橋本 藤井委員 前川・橋本 前川・橋本 福島委員	そこで何かやっている映像を他でも観ることが出来るということではなくて、片方が予約されている時に、もう一部屋でも音楽的なものができるようにしてほしいということである。 それならば問題ない。 ここの倉庫は何に使うのか。 椅子をスタッキングしてしまっておく場所である。 台車1台あたり30脚を3台収納している。
渡辺委員長	先程のプロジェクターの話だが、AとBとではAの方が広いので、Aの方に付けた方がよいのではないか。全体で使うのであればどちらでもよいと思うが、仕切って使う場合にはAの方がよいと思う。
平井委員	多分プロジェクターはこの辺りに付くので、そうすると届かなくなる恐れもあり、おっしゃる通りだと思う。
渡辺委員長	先程、白い壁であればどこでも映像が映せるという話だったが、それはよいと思う。
渡辺委員長	今はそういうものが色々ある。我々も大学でよく使うが、ホワイ

前川・橋本 トボードのように書けて、映像も映せるものがある。
我々の癖だが、部屋に入ると右側が講師のコーナーというの
あって、左側にあると違和感を感じてしまう。
福島委員 素人考えでそう思っただけである。
前川・橋本 そのように変える。
渡辺事業係長 確認ですが、スクリーンの位置も A 室の方に移るとい
うことか。
前川・橋本 A 室の方に付ける。材料等については色々サンプルを取
り寄せて検討する。

【IT ルーム A・B】

- ・二部屋に仕切れるように移動間仕切りを設置
- ・廊下側の壁はガラスのパーティション（固定式）を採用
- ・フリースペース側の壁はガラスの移動間仕切り

浅野副委員長 フリースペースとの連携ということからすると、学
習室 C との境の壁が邪魔な気がするが。

前川・橋本 構造躯体ではないので、取り払って移動間仕切りに
することは可能である。

前川・田中 その壁のところに備品を収納する棚等を置いている
のだが、ガラスになってしまうと棚が置けないので、その置き
場所を検討する必要がある。

渡辺委員長 建築的にも浅野先生がおっしゃる方がよいと思
う。

雫 委員 以前の話を、その辺りは展示に使うようなことだ
ったと記憶しているが。

前川・橋本 ピクチャーレールで天井から吊ることも出来る
ので、この公民館の特徴でもあるフリースペースを最大限生か
せるようにした方がよいと思う。

松尾委員 パソコンが置かれると思うが、どのようなイメ
ージなのか。

大関公民館長 デスクトップではなくノート型を棚に収納
することで考えている。

多田委員 この部屋に Wi-Fi やホットスポット対応する
ということか。

渡辺委員長 それは今後の検討になるが、いまどきいち
いちつなぐのではなく、ワイヤレスでやった方が便利だと思
う。

前川・橋本 ワイヤレスの問題点も色々と指摘されてい
るので、館としてどうするのか検討していただく。

渡辺委員長 既に 12 時を廻ったので、一旦ここで中
断して次回に送ることも出来るが如何なものか。

前川・田中 次回には具体的な材料をお持ちして説
明する。

福島委員 ガラスの間仕切りもうっすらと中がうかが
える方がよいだろうとかそのあたりの提案もお願いしたい。

渡辺委員長 設計事務所側の具体的な主張をしてい
ただいて、それを皆さんに

判断してもらふことにしたい。言葉で伝えようとしても難しい部分があるので、やはり現物を2、3種類お持ちいただいて確認していただくのがよい。

渡辺委員長

皆さん、熱心な議論をありがとうございました。

前川事務所の皆さんも、ご説明ありがとうございました。きっちりした模型があるので皆さんもイメージが湧くし、浅野先生からもなかなかよいご提案をいただいた。

今日は、ご説明いただいている部分の全部は終わっていないけれど、特に北町ホールについては今後の使い方についても市民の皆さんから色々と要望も出ていると伺っていて、また、この公民館部分の重要な一つの要素になるので、次回には前川事務所の方で色々と準備をしてご説明いただければと思う。

併せて、今回は実施設計なので、遮音についてもどれくらいの遮音を考えているのか、何dB落とすかで全く違ってくるので、最初は皆さんも分かりにくいかもしれないが、説明すればご理解いただけると思う。これくらい落とすからこの仕様になるとか、そのあたりの資料もご用意いただきたい。

こちら油断して時間がかかりすぎてしまい申し訳なかった。

4.次回の日程について

山崎庶務係長

第3回目は9月8日(木)午後7時から、会場は市役所第二庁舎8階801会議室を予定している。

質問事項回答一覧 (6/28、7/4受付分)

平成23年7月15日送付

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
1	6月28日	松尾昇治	開催通知の議題には「(1)前回の質問事項について」とありますが、本日の議題にはありませんでした。私の出した前回の質問No.19についての回答に大誤解があります。次回に訂正回答をお願いします。	開催通知送付時は回答予定でした図書館側の回答の確認ができませんでしたので、当日の次第からは、はずさせていただきました。ご説明が足りず申し訳ございませんでした。下記が図書館の回答です。 「ICTの活用ですが、図書館システムは本館で稼働中の同じシステムを採用し、新たな項目としては、市民開放用インターネット端末の設置を考えています。」
2	6月28日	松尾昇治	これは意見ですが、基本設計に「将来導入予定設備対応として、BDS、自動貸出機、予約受け取りコーナーの配置スペースを確保します。」と一言将来が入ったために、双六に例えれば、上がり手前で振り出しに後戻りしてしむことになりました。その結果、図書館ゾーニングの再検討がされることになり、この面では良かったと思うのですが、方針がぶれないことを望みます。	
3	6月28日	松尾昇治	再度になりますが、図書館側に「蔵書計画」がありませんと書架配置や書架の種類決定などに関する実施設計ができませんので、「抜かりのないように」ご努力をお願いします。	文庫架などの専用書架配置にかかる部分については、次回の市民検討委員会に提出します。なお、細かな蔵書計画については平成24年度に開設準備専任職員が配置されてから作成いたします。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
4	6月28日	松尾昇治	基本設計のなかに「図書館事務室は、十分な作業スペースを確保し、市民参加による作業室の配置について検討していきます。」パターンBには「多目的室・市民参加の作業室」と明記されています。このことを「図書館職員の意見」ということだけで、消し去ることができるのでしょうか。基本設計は市民に公開された事実ですから。	図書館を運営するためには、適切な広さの事務室・作業室・更衣室などが必要と考えています。多目的室を設置した場合、図書館内の個人情報保護の観点から個室にし、開架室側へ直接出入り出来るようにする必要があります。その場合、出入りのドアを設置するため、本の収容スペースが少なくなります。
5	6月28日	松尾昇治	児童コーナーのスペース拡充や十分な児童書を確保するというのは、図書館の方針として示されたものと認識します。委員会でもご発言がありましたように、「なぜ」の質問にご回答をお願いします。	児童コーナーのスペースや蔵書数については、当初お示した考え方が基本です。概要版のパターンB案を活かした場合には、児童書は増えますが一般書が減ることとなり、市民検討委員会のご理解が必要と考えています。
6	6月28日	松尾昇治	私の意見ですが、児童書の比率を増やす理由のひとつに、小金井の図書館は小河内芳子先生のコーナーをつくらなければならない務めがあると考えているからです。	収蔵スペースの問題もあり、今後、何を小金井図書館として収集していくのかは、中央図書館の建設にあわせて検討していきます。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
7	6月28日	松尾昇治	「開架式書庫」という表現には、書庫＝閉架のイメージがありますので、違和感があります。単に「開架室」あるいは「貸出開架室」でいかがでしょうか。	事務室内にある集密書庫ですので、「閉架式書庫」が適切な表記だと考えています。
8	6月28日	松尾昇治	図書館レイアウトの意見です。参考図書コーナーが右上に配置されていますが、デスクのある閲覧コーナー（図面左）に配置した方が良いと思います。参考図書には閲覧機が必須です。図面左にはあります。	参考図書机は必要と考えています。
9	6月28日	松尾昇治	壁側書架の上は、天窓にして、外気流通のできる省エネ設計を考えたらどうでしょう。	閲覧カウンターテーブルの正面及び上部は、窓として考えています。書架の上部についても、有効利用可能か検討します。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
10	6月28日	松尾昇治	閲覧コーナーの左側は、最低でも縦1間×横1間半(引き戸つき)の吐き出しにして、避難路を兼ねるようにしたらどうでしょう。	読書テラスへの車椅子の出入りは考慮しております(有効90cm)。横1間半(2.7m幅)の全面ガラスに、大型引戸を設置するという意味でしょうか。その場合は閲覧カウンターテーブルは、中止しますか。
11	6月28日	松尾昇治	職員のいるカウンターに対して、一般書の書架並びが南北なので、閲覧コーナーが死角になってしまいます。	ご意見として伺います。
12	6月28日	松尾昇治	カウンターのつくりも研究が必要と思います。考えられる業務として、「貸出」「返却」に加えて「新規利用登録」をどこにするのでしょうか。	同じカウンターで業務を分けて運営します。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
13	6月28日	松尾昇治	前委員会でも指摘しましたが、「レファレンス業務」と「読書相談」とをどうするのでしょうか。研究が必要です。これらは業務用PCの数とも関わってきます。	同じカウンターでご相談をお受けします。緑分室では、PC 3台を窓口に設置しています。
14	6月28日	松尾昇治	一般、児童ともに「テーマ展示」を実施すると思いますが、そのスペースを考えていますか。	今後、検討をすすめていきます。
15	6月28日	松尾昇治	「荷解室」も、ブックポストとの関係で研究が必要でしょう。	この位置関係で適切と考えています。

質問事項回答一覧 (6/28、7/4受付分)

平成23年7月15日送付

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
16	6月28日	松尾昇治	大量の返却本を一時収納する棚やブックトラックをどこに置くのでしょうか。また、カウンターの両端は1メートル程しかありませんが、これでは、ブックトラックを返すことに難儀するでしょうか。	現在の分室と同じように、ブックトラックの活用を考えています。
17	6月28日	松尾昇治	AV資料の貸出、返却はマニュアルになりますので、職員動線を考慮して、どこに本体を置いた方がよいのでしょうか。	カウンターの後ろに本体を収納する棚を設けます。
18	6月28日	松尾昇治	基本設計には「車椅子対応の書架間隔」とありますので、車椅子の避難路を考えますと、閲覧コーナーの掃き出しが有効ではないでしょうか。	「読書テラスへの車椅子の出入り」については、No. 10の回答によります。避難経路については、基本的にはロビー側を考えています。読書テラス側は、道路面(歩道)と段差があるため、テラスから先のルートの検討が必要です。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
19	6月28日	松尾昇治	書架高2メートルは、天井の高さ(3メートル)からして圧迫感を感じます。1.8メートル高や1.6メートル高の書架を組み合わせるように工夫ができるでしょうか。	手の届く範囲が適切かなとは考えていますが、収容能力も考慮しなければなりません。低書架ばかりにすると本の収容冊数が減ります。
20	6月28日	松尾昇治	「お話し室」の出入り口は1.5メートルしかありません。20人程度の子どもが靴を脱いで上がるとしても、狭くありませんか。	12帖程度の広さのため、1.5メートルと考えています。狭くはないと考えています。
21	6月28日	松尾昇治	「お話し室」が全面ガラス張りでは、おはなし会のおときにどうするのでしょうか。周りをカーテンで仕切るのでしょうか。	照明の明るさを調整するため、カーテン設置を考えています。

質問事項回答一覧 (6/28、7/4受付分)

平成23年7月15日送付

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
22	6月28日	松尾昇治	ヤングアダルトコーナーは、ヤングが集まりやすい設えを工夫する必要があります。	そのように工夫したいと考えています。
23	6月28日	松尾昇治	児童コーナーの近くには、子育てや家庭に関わる資料を、例えば「ヤングパパ・ママコーナー」のような標記で設置することが必要でしょう。	分室ですので、あまり細かくコーナーを設置するのは使い勝手が悪くなります。運営を開始してからも、使い勝手のよい工夫が必要と考えています。
24	6月28日	松尾昇治	文芸書(小説)や実用書などの単行書は、菊版、四六版が多いので、書架高2メートルあれば、7段は取れるでしょう。6段にするか、7段にするか、図書館の蔵書計画が必要です。併せて、公共図書館の本は「うすで」のものが多く、一棚90センチメートルの中で、45冊前後は入ります。一棚35冊の計算では、一冊あたり2.5センチ幅(400ページ相当の本)になり、公共図書館としては、1冊の想定が厚すぎるように思います。	一棚35冊の理論値で、本施設に適切な蔵書構成を目指します。併せて、No3をご参照ください。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
25	6月28日	松尾昇治	図書館事務室の広さや什器の選定は、職員数が決まらなとできません。図書館(あるいは市)は8人も配置する計画をおもちなんでしょうか。	現段階で、職員配置数は未定です。
26	6月28日	松尾昇治	OPACが1台では足りないでしょう。少なくとも3台。	2台設置予定です。
27	6月28日	松尾昇治	インターネットや有料データベース閲覧のできるPCの設置は、田中館長の議会答弁にもあります・情報端末の設置を含めいかがでしょうか。	市民開放用インターネット端末については、図書館に設置したほうが市民の利便性は高いのではないかと考えていますが、設置にあたってのスペースも考慮する必要があります。

質問事項回答一覧 (6/28、7/4受付分)

平成23年7月15日送付

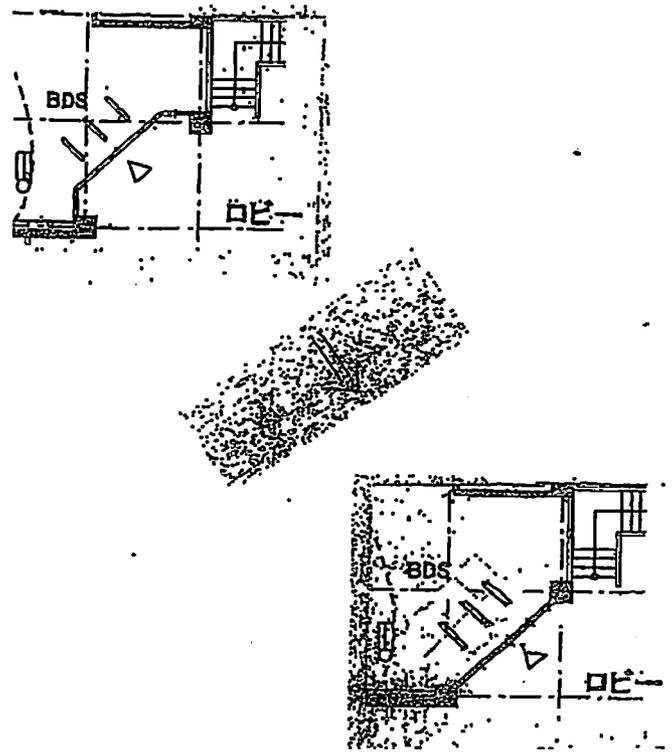
No.	受付日	質問者	質問事項	回答
28	6月28日	松尾昇治	ブックポスト (BP) の位置。ブックポストは、利用者が夜間、や休館日に本を返却するためにありますので、裏庭では不便ですし、夜間は危険です。表通りの入り口付近にするべきです。	図書館から離れた場所に設置すると、雨の日などは本が濡れて汚損の原因となります。よって原案のとおりと考えています。
29	6月28日	松尾昇治	当分の間、不要な「予約受取室」を空き部屋にしておいたのでは、そのうち、物置になってしまうでしょう。設計スペースとしてあっても、壁は作らず、有効な利用方法を考えるべきではないでしょうか。	「予約受取室」は、ガラスのパーティションで仕切る形の部屋ですので、パーティションを外して、テーマ図書を展示するなどの工夫をいたします。
30	6月28日	松尾昇治	「予約受取室」を使わないのですから、相当冊数のとりおきが予想される「予約本」をどこに置いておくのでしょうか。	現在の本館・分室と同じように、カウンターの後ろに書架を用意して運用いたします。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
31	6月28日	松尾昇治	「ブラウジングコーナー」は、シニア世代の居場所として必要なコーナーです。ゆったりとして椅子をもっと多く設置すべきです。	スペースとの兼ね合いもあり、妥当な配置と考えています。
32	6月28日	松尾昇治	AV資料の種類と数及び貸出の方法を職員動線と併せて研究すべきです。この部分は縮小も可能でしょう。	AV資料につきましては、DVDとCDの比率なども含め検討していきます。貸出方法につきましては、No17をご参照ください。
33	6月28日	松尾昇治	当分の間、不要の自動貸出機のスペースを有効に活用することを考えるべきでしょう。	壁面をどう利用できるのか検討していきます。

質問事項回答一覧 (6/28、7/4受付分)

平成23年7月15日送付

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
34	6月28日	松尾昇治	点字ブロックはどうするのでしょうか。今まで議論されていませんが、必要なことでしょうか。	障害者団体にヒヤリング済みですので、今後、検討を進めます。
35	6月28日	松尾昇治	基本設計の日本語表現02ページ [建物配置] のみです。 ・利用勝手 → 使い勝手 ・管理運営上有利とした。何がどう有利なのか意味不明。 ・…小さく抑える制約がでる。ここは日本語として前後の論旨が繋がらない。 ・計画建物高さを抑えて → 表現がおかしい ・有効活用しました。 → 「ですます体」になっているうえ、表現もおかしい。 ・「一般利用者用駐車場」 → 感じが多すぎるので、「一般利用者のための駐車場」としたらどうでしょうか。 ・メンテ車両 → 訳語は使わず、「建物のメンテナンス車両」の方がわかりやすい。 ・「作業利用」も日本語として違和感がある。などですが、以下省略します。(印刷前に委員に見せてほしかったです。)	市教育委員会としては、前川建築設計事務所に依頼した「基本設計」の仕様書の中で、「基本設計書」の位置づけは、「市民広報用」ではなく、事務局内部の細部資料として位置づけており、その内容については、一般市民を対象にわかりやすい表記でとのお願いはしておりません。ですので、委員の方の確認を必要としないものとの認識でしたので、製本業者に発注する前の版下のご提示も、基本設計「概要版」のみとさせていただきました。

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
36	7月4日	松尾昇治	<p>図書館の出入口のドアを右図のように、館内が広くなり、児童コーナーと予約受け取りの下スペースに余裕ができます。いかがでしょうか。 (下に図面が入ります。)</p> 	<p>図書館内部は確かに広がりますが、建物のエントランスロビーとしての広さ(設え)については、慎重に検討したいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none">・EV前や階段登り口廻り等との関係(現況でも決して広いわけではありません。)・図書館のサインの配置等・図書館入口部において、防火区画(建具、避難経路)を考えています。建築的な納まりも考慮が必要です。

(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設実施設計
市民検討委員会 (第2回) 次第

日 時：平成23年7月24日 (日)
午前10時～
場 所：市役所第二庁舎8階
801会議室

- 1 前回の質問事項等について
- 2 図書館のゾーニングについて
 - ・一般書と児童書のバランスについて
 - ・ブラウジングコーナーと蔵書数のバランスについて
 - ・事務室廻りにについて
- 3 公民館主要諸室の利用形態の確認と各室の仕様について
- 4 次回の開催日程について
- 5 配付資料
 - (1) 質問事項回答一覧 …実施設計検討委員会資料6
 - (2) 図書館平面図 (A案一改) …実施設計検討委員会資料7
 - (3) 2階平面図 …実施設計検討委員会資料8
 - (4) 公民館主要諸室詳細図 …実施設計検討委員会資料9

質問事項回答一覧 (7/14受付分)

平成23年7月24日配付

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
37	7月14日	松尾昇治	<p>地震と西日対策について 政府が、国民に対して東日本大震災と福島原発事故にかかわり、夏の電力供給不足の対応として、一律15%の節電を求めている中、今年も7月初旬より酷暑が続いております。(仮称)貫井北町地域センターの基本設計は、3月11日の大震災以前に行ってきた検討等が反映されたものと理解しております。しかし、今回の大震災については、各方面から「想定外」とのことばを多く聞くに及んで、本基本設計においても、(立川断層が動く確率が高くなったとの報道もあり)地震への対策や節電を強いられる中での太陽光による室内温度の上昇をどのように考えればよいのでしょうか。特に、図書館は西窓になっていて、読書コーナーがその窓に面していますので、夏の夕刻には西日が直接あたり、読書ができる環境にならないのではないかと危惧いたします。いかがなものでしょうか。</p>	<p>基本設計時に説明して参りました通り、建物の断熱性能を高める手法は検討中です。今後、全体工事費を見据えて詳細な設計を進めて参ります。 図書館の西日対策についてですが、2階のバルコニーがあるため、夏の日中は館内に強い日差しが差し込むことはありません。ただ、ご指摘の通り、夕刻になれば太陽高度が下がり館内に西日が差し込むことが予想されます。その対策として、ロールスクリーンやブラインドを設置することに加え、交差点側の敷地境界線に沿って落葉樹を植える予定にしております。夏場は茂った葉によって日差しが遮られ、冬場は落葉して館内まで暖かな日が差し込むことを期待しております。また、2階バルコニーの先端からワイヤーを下げて、アサガオやゴーヤ等による壁面緑化が出来る設えとすることも、日射を和らげる一つの手立てと考えております。</p>